

北海道山紀行・2014

● 7月7日（月） 曇・霧雨のち晴 ピヤシリ山（986.6m）

○ 今年は6月末に家を出て、昨日まで家内と札幌、帯広、トマム、富良野と周遊観光をしてきた。山を歩くのが苦手な家内は昨日の昼、旭川空港から神奈川の自宅へ帰った。一人残った私は今日から恒例の一人山紀行を始める。もう北海道の一人山紀行も、今年で8年目になる。8年も北海道の山を登っていると、めばしい山は殆ど登っているので、今年はちょっとマイナーな山を狙ってみた。

・まず第一が今日登るピヤシリ山だ。ピヤシリ山は名寄市の北東、道北の大河である天塩川沿いに聳える山で、天塩岳よりさらに北に位置する。名寄側の南西面は冬はスキー場として賑わうため、山頂近くまで車道が来ている。登山道は南東面の樹林帯の中から始まる。登山口へ通ずる林道は夏場まではゲートが締められていることが多く、上川北部森林管理署に鍵の番号を確認しておく必要がある。

・昨夜はピヤシリ山に近い道の駅「名寄」に泊まった。

4時半に起床。空はうす暗い。まだゲートの鍵番号を確認していないので、まず上川北部森林管理署に寄って鍵の番号を確認しなければならない。そのうえ登山口まで行く林道がどこにあるかわからないので、森林管理署で聞かねばならない。朝食を取らずにまず上川北部森林管理署を目指した。

・6時前に管理署に到着したが、当然誰もおらず、鍵がかかっている。ところが親切にも玄関に「ゲートの鍵番号は1234です。上川管理署管内はこのゲートも同じです」と表示してあり、ピヤシリ山登山口への詳しい林道ルートが印刷して置いてあった。なんと親切なところだろう。地図を1枚頂いて、鍵番号をメモして、早速登山口へ向かった。道道60号線を13kmくらい北上した珊瑚から左折して林道に入る。林道入口にはピヤシリ山への道標はどこにもなく、管理署でもらった



なんの標識もない林道入口（13km 地点）

地図に書いてある距離が頼りだ。地図に「国道を道道60号線に入ってから13.3km」と書いてあり、ほぼ13kmで林道入口を見つけた。その後も地図のルートと距離をたよりに林道を10km強走ったが、道標は全く無く、途中からは車1台やっと通れるくらいの幅で、分岐も多く草が生い茂り、地図が無ければとても怖くて走る気になれない。一度は分岐を間違えて直進しUターン出来ないで延々300mくらいバックした。それにしても管理署で地図をゲットしておいて良かった。この地図がなければとても登山口へ到達できなかつたろう。



道は左の草むらへ入ってゆく。右へ真っすぐ行ってしまい300mくらい入ってから気が付きバックで戻ってきた。

ゲートは2回通過したがどちらも施錠されていなかった。登山口は駐車スペースというよりは、林道のどん詰まりだ。なんとか向きを変えて道端に駐車。7:15に出発した。



初めから草をかき分ける登山口



林道どん詰まりの駐車スペース

・天気は良くない。霧雨が降り出し、周りは霧で視界が無い。あまり人が入っていないらしく道は草が生い茂りかき分けて歩く。コンディションが悪いので登山をやめようかと思ったが、天気

予報で「午後には晴れる」と云っていたので、それを信じて登って行った。霧に濡れた草をかき分けてあるくので、スパッツを付けているのに足は水に濡れ、靴の中まで水が入り込んできた。とにかく寂しい山で登山道のトレースも草が被っていつ分からなくなるか心配するくらいだ。

・しばらく登ると「御車の滝」が現れた。木立越しに遠望し、大した滝ではないが立派な標識が建っている。さらに少し登ると平坦なピヤシリ湿原に出た。もう花の時期が終わったのか、エゾカンゾウが



エゾカンゾウが寂しく咲くピヤシリ湿原

パラパラ咲いているだけの狭い湿原というより平地、草が覆っていてトレースを探しながら歩いた。晴れるどころか一面の霧の中、ヒグマが出るというので鈴をジャンジャン鳴らしながら急坂を登り、9:15に無事山頂に着いた。結構りっぱな山頂標識塔が建っている。南西面はスキー場になっていて、車道が山頂近くまで来ているので、山頂に来る人はけっこういるのだろうか？ 今日気象が悪く霧の中、人っ子一人いない寂しい山頂だ。下半身びしょ濡れ。靴を脱いで水を出し、靴下を絞って履き直し、さっさと下山の途についた。



